

しゅうまい

暑い日が続いていますが、皆様お元気でしょうか？久しぶりの「しゅうまい」発行となってしまいました。今号には、かなり前のことになってしまいましたが、3・1集会の報告の掲載と総会のお知らせ、韓国スタディツアーの案内を同封しました。これからは、定期的な発行を目指しますのでよろしくお願いします。



—かながわ歴史教育を考える市民の会—

1919年朝鮮3・1独立運動記念集会報告

韓国併合100年、日・韓・「在日」の未来を考える

「併合」から100年

1910年8月22日、大韓帝国の首都漢城（現ソウル）で、韓国統監寺内正毅と韓国首相李完用との間で「韓国併合に関する条約」が調印された。「韓国皇帝陛下は、韓国全部に関する一切の統治権を完全且永久に日本国皇帝陛下に譲与す」（第1条）とされ、日本による朝鮮の植民地化は「完成」する。今日、日本の歴史教科書では「韓国併合」、韓国の歴史教科書では「日帝の国権被奪」と書かれている。

私たち市民の会では、毎年、「三・一独立運動」の歴史的意義を忘れないために、同じ日に記念集会を開催してきた。2010年は「韓国併合」から100年の節目であり、改めて日韓（日朝）の、そして在日コリアンの未来を考える学習会をもつことにした。

講師の裴重度（ペ・ジュンド）さんは、川崎市社会福祉法人青丘社の理事長として、在日コリアンや神奈川の外国籍住民の人権をめぐる諸課題に、長

年にわたり第一線でとりくまれてきた。「併合」100年を考えるうえで、文字どおり原点に帰ることを求められた講演であった。

日本社会の排外主義を危惧する

裴さんは冒頭、今日における日本社会の排外主義的傾向を強く批判した。外国人地方参政権へのリアクション、「慰安婦はいなかった」と公言し続ける政治家、横浜での歴史教科書問題、そして「高校授業料実質無償化」からの朝鮮学校排除の動き…。改めて列記してみれば、「排外意識が強まっている」と言い切る裴さんの憤りは当然だ。その一方、裴さんは、今年のオリンピックで、女子フィギュア・スケートで勝者となった韓国選手に対し、喝采をおくる日本社会の雰囲気感慨も覚えたという。

日本の外国人施策

裴さんは講演の大半を、近現代を貫く日本の外国

人施策への批判的検討に充てていた。戦前、皇民化を強いられた朝鮮人・台湾人は、敗戦後は「追放か同化か」の選択を迫られることになる。1945年12月には戸籍制度を利用して選挙権が停止され、1947年5月には、「最後の勅令」として「外国人登録令」が発せられる。旧植民地出身者は「当分の間外国人」と位置づけられ、諸権利から「合法」的に排除された（今日でも基本的に変わらない）。GHQ憲法草案では、外国人に対する平等条項が含まれていたが、日本国憲法ではこの部分は除かれた。戦後、各地に設立された朝鮮学校は一時強制的に閉鎖され、在日コリアンは、「イヤだったら南でも北でも帰れ、そうでなければ「日本人」として生きろ」という状況に置かれる。

裴さんは、「民族意識は統治権力にとって最大の障害であるが、抑圧一辺倒ではいけない。だからこそ部分的に融和政策がとられるのだ」と述べる。特攻隊には朝鮮人志願兵もいたし、自分自身も「日本人のフリをして生きてきた時代があった」という。「ニューカマー」に対する日本の管理政策と、かつての在日コリアンに対するそれとの類似点が語られた。

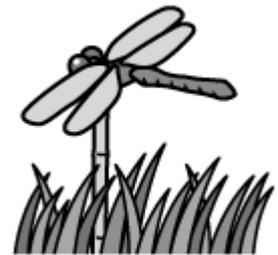
ナショナリズムは超えられるか—若干の感想—

講演からは些かなりとも「楽観的」な見通しを聞くことはなかった。かつて在日外国人に指紋押捺を強いてきた「外国人登録法」の廃止は決まったが、

新たな入管制度が代置される。「生きにくい環境は続く」と裴さんは言い切る。韓国では在韓外国人支援法など、「共生」のための制度が少しずつ整えられているが、日本は「共生」のために必要な制度をどう構想していくのか。講演は、「歴史の所産であるナショナリズムを超えたところに日韓の未来があると思っている」と締めくくられた。

私自身は、日本ナショナリズム批判に何ら異論はない。「韓国併合」と「国権被奪」の間には、容易に埋めがたい認識の相違が横たわっているのに、それをさらに深めることを意図した教科書が、自分の足下で採用された事態は、あまりに深刻だ。ただ、「ナショナリズムを超えた未来」とは、具体的にはどんなイメージを抱けばよいのか。残された宿題は大きくて重い。

(神奈川県高等学校教職員組合 阪本宏児)



—かながわ歴史教育を考える市民の会—

☆第14回定期総会・記念講演会☆

- ☆日 時 9月17日(金)18時15分開会
- ☆場 所 かながわ県民センター3階301会議室
- ☆内 容
- ・2009年度活動、会計報告
 - ・2010年度活動計画
- 記念講演
- ・「9.18から始まる侵略戦争」
 - ・岩崎 富久男さん（明治大学名誉教授・湘南日中友好協会会長）

